

議員管外研修



10月12日から13日、議員全員で、岩手県住田町と同県大槌町を視察し、研修を行なってきました。

森林活用の

先進地に学ぶ

【目的】

町の約65%を山林が占め、大半が伐採期を迎えている白鷹の現状を踏まえ、森林資源利活用の先進地を訪れ、事例を学ぶ。

【視察先】

- ①東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県大槌町
- ②古くから林業の盛んな同県住田町

復興の状況

大槌町では当時の状況を聞き、あらためて津波の恐ろしさを感じた。いたるところで復興工事が行われているが、まだまだ時間がかかるとのこと。

木材の活用

復興と森林再生

両町とも山林が町の面積の大半を占めている点で共通している。

震災後、復興を進めるにあたり、いち早く「里山再生と森林産業振興」に着目した。

大槌町の取り組み

復興事業において、資材に木材を多く取り込んでおり、どちらかと言えば「利用型」。

住田町の取り組み

いち早く「木造仮設住宅提供」で話題になるなど、新たな木材利用を考える、どちらかと言えば、町外に向けた「供給型」。

まとめ

先進地に学ぶ

地元資源活用の観点から、産業としての育成に力を入れていることや、多様な担い手の受け入れの寛容性など、学ぶべきことは多かった。

白鷹の今後に向けて

今後進めるべき方向性は、具体的にどこに照準を合わせるべきか、両町の戦略を参考にしながら、再度の議論が必要である。

「災害防止対策・里山再生」の観点とともに、「需要と供給」の経済原則の観点も重要で本町の、木材利用の新たな発想や取り組みに期待したい。



復興が進む大槌町



被災した大槌町役場



木の特性を活かした屋根（住田町役場）

